

第24回

激動する現代社会にマッチした新しい、能動的な
《自分》のイメージが、今日の美術のなかから立ち現れる。

《多極の動態》

網の目のように分岐しうごめく自らを、

宇宙論的な視点に立つて

統合する力と意志であるような《自分》。

西欧の《自我》と日本の《没我》を共に超える可能性が、
明治以来の東西文明の出会いの場である横浜で問われる。

企画委員

中村英樹

出品作家

井口大介

藤田昭子

井口里栄

向井美恵

池ヶ谷肇

最上壽之

石井厚生

山田恵子

伊東直昭

山部泰司

伊藤誠

矢野静明

上田雄三

上野慶二

榎倉康二

小田英之

木下佳通代

國安孝昌

土谷武

福田美蘭

The 24th
'Artists Today' Exhibition
Phases
Multiplar Movement

1988年

11月11日[金]—11月26日[土]

AM10:00—PM6:00

11月14日(月)休館日

11月12日(土) 午後2時より、果敢な現代社会批評の旗手
文芸評論家三浦雅士氏を招いて、中村英樹・出品作家
数名とシンポジウムを、午後5時より懇親会を行ないま
す。奮ってご参加下さい。シンポジウムテーマ「現代社会と美術」

横浜市民ギャラリー

横浜市中区万代町1-1(教育文化センター内)
JR関内駅南口下車1分 TEL.045(671)3721

主催——横浜市・横浜市教育委員会

後援 Heineken Beer

今日の作家 多極の動態 展

The 24th 'Artists Today' Exhibition
Phases Multiplar Movement

遊離した美しき球体のとき〈自分〉のイメージは、激動する現代社会で通用しない。
積極的な主体の構造として、新しい〈自分〉の像が切実に求められている。
今日の美術には、美術独自の発言として、手掛かりになる興味深い徴候が見出される。
それは当初なじみのない異物のようでも、自分で気づかない〈自分〉を教えてくれる。
唯一の中心を持つ球体に似た〈自分〉ではなく、
『多極の動態』ともいうべき〈自分〉を暗示する作品の成り立ちが、
そこに認められる。

多くの結節点が複合し、強い力で結ばれながら、自らを築き上げていく。
極と極とのダイナミックな力関係の緊張のもとに次の瞬間への変化を感じさせる〈動態〉は、
自己完結せず流動する力の状態をなす。

〈築き上げられた流動〉あるいは〈流動する築かれた構え〉。
これは、人が自分をこえる力オスとの〈関係〉として
自分の何たるかを形成する以外にない点と対応し、
コスモシカル(宇宙論的)な視点をもちたらず。

そして、新しい能動的な主体の在り方は、極と極とを
強力に結びつけようとする〈過程〉としてあり、
その〈統合する知的な力と意志〉として存する。

この新しい〈自分〉の芽生えには、西欧近代の〈自我〉の限界と、
日本の〈没我〉の弱さを止揚する可能性が秘められている。
明治以来の東西文明の出会いの場であった横浜において
それをテーマにすることは、多少の意義があろう。

企画書

中村英樹

1988年
11月11日[金]—11月26日[土]
AM10:00—PM6:00
11月14日(月)休館日

横浜市民ギャラリー

横浜市中区万代町1-1(教育文化センター内)
JR関内駅南口下車1分 TEL.045(671)3721

主催——横浜市・横浜市教育委員会

